

農業委員会だより

なんたん

No. **59**

令和 8 年 2 月号

豊穰を願って!

| | |
|--------------------|-----|
| 農業委員会のうごき..... | 2~4 |
| まちかど通信..... | 5 |
| 地域農業を支える..... | 6 |
| 委員紹介..... | 7 |
| なんたんあっちこっち 他 | 8 |

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

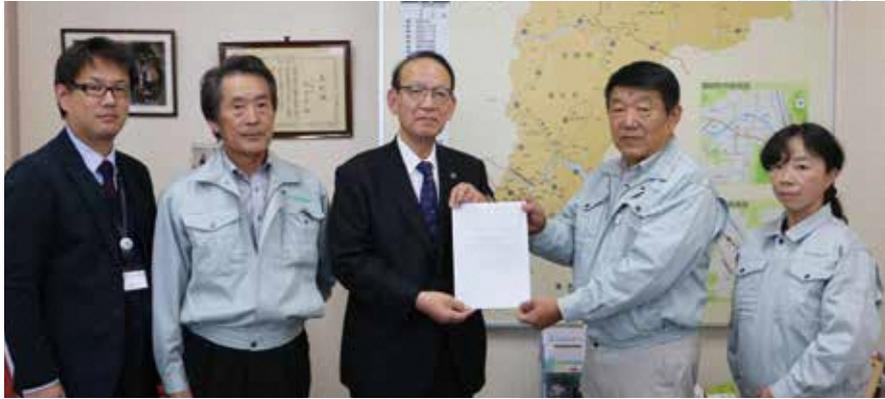
■電話 0771-68-0067 ■E-mail co-nougyo@city.nantan.lg.jp

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/index.html>



農業委員会のうごき

▶意見書を受け取る西村市長(中央)
手渡す農業委員会会長(中央右)



令和7年10月30日に「農地等
利用最適化推進施策の改善に関
する意見書」を西村市長に提出
しました。

農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書

農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書 5つのポイント

1. 生産資材等高騰対策



- 市内産有機質肥料を安価に安定供給できる市内資源循環システムの再構築
- 「耕種農家緊急支援交付金」や「畜産農家緊急支援交付金」と同等の支援策
- 省エネタイプの機械・施設の導入促進に、国や府の事業の積極的活用と「南丹市がんばる農業応援事業」の拡充

2. 米価対策



- 米をメインのふるさと納税返礼品とし米農家がより恩恵を受けやすい体制づくりと南丹市産米のPR
- 米の消費拡大と米農家の所得支援対策について、国や府への強い要請

3. 有害鳥獣対策



- 捕獲班員の確保育成につながる狩猟免許取得補助事業・制度の拡充と取得要件緩和等支援策
- 南丹市鳥獣被害防止計画における捕獲計画数(ニホンジカ2,800頭、イノシシ1,800頭)を達成できる捕獲体制の強化
- JAによる捕獲の市内全域化と農業者組織が取り組む捕獲において全国トップランナーとなるための支援策
- 国の鳥獣被害防止総合対策交付金の要件に当てはまらないワイヤーメッシュ柵・電気柵設置や修繕の市単独の施策等、きめ細やかな対応

5. 新規就農者等支援対策



- 就農希望者の就農計画作成時の関係機関一丸となった指導と助言
- 短期間で採算ベースにのせるための新規就農者への総合的な支援体制と制度の構築
- 異業種からの参入促進と市内の農業者の規模拡大や法人化への支援強化

4. 女性農業者支援対策



- 育児休暇取得困難な農業者の保育施設利用時に待機児童を無くすよう特に配慮
- 出産前後など労働に制約がある期間の代替人材雇用支援等の制度創設
- 女性農業者が地域農業の担い手として活躍できるようきめ細やかな支援体制
- 女性農業者等による南丹市産農産物を活用した6次産業化への支援拡充

令和7年度農業委員の農林水産大臣表彰において 大沢泰一委員が農林水産大臣に表彰されました!

大沢委員は旧日吉町時より農業委員として活躍され、平成18年からは南丹市農業委員として会長、職務代理等を歴任されるなど、24年間にわたり地域農業の発展に尽力されてきました。この度、委員活動における多大な功績により、令和7年度農業委員の農林水産大臣表彰において表彰されました。誠にありがとうございます。



▲伝達式にて表彰状を受け取る、大沢 泰一委員(右)

管外視察研修報告 中津川市「ちこり村」・美濃市農業委員会

11月13日・14日の2日間、岐阜県中津川市の「ちこり村」と美濃市農業委員会を訪問し、地域活性化と農地集積の実践例を学びました。

6次産業化の好例「ちこり村」

1日目は、地元企業が運営する教育型観光施設「ちこり村」を見学し、50種類以上の地元野菜や有機野菜の家庭料理が並ぶレストラン「バーバードライニング」で昼食をとりました。地域食材を生かした6次産業化の取組に触れ地域の魅力を形にする意欲を感じました。

美濃市農業委員会 小規模・分散農地の集積事例

2日目は美濃市農業委員会を訪問しました。美濃市は全面積の8割を山林が占める中山間地域で、兼業農家や自家消費農家が多く、小規模・分散農地の集積が課題となっていますが、全国に先駆けて地域計画を策定し、意欲的に農地集積を



▲美濃市農業委員会による事例説明。南丹市と似た課題があり、参考になる部分が多い。

進めてきた自治体です。研修では3地区の具体的な取り組みを伺いました。A地区では、揚水ポンプの老朽化や獣害の影響で稲作が中止されていました。B地区では、酪農家撤退に伴う牧草地の遊休化に対し、丁寧な意向調査と協議を重ね、市外法人を含む担い手と結びつけ、遊休農地ゼロを達成しました。C地区では、高齢化で耕作者が減少するなか協議を重ね、そばや露地野菜を担う市外法人とのマッチングにより農地の再生が進みました。

農地維持は住みやすさにつながる

3地区に共通していたのは、粘り強い意向把握と、協議の場で決めべき事項を明確にしながら、担い手との調整を着実に進めていた点です。話し合いを重ねる中で、農地の維持は単に農業生産の問題ではなく、自分たちの生活空間の景観や住みやすさを守ることにつながるという思いを地域で共有し、それが住民の積極的な保全活動を支えていることに強い感銘を受けました。また、農機シェアや地産地消など、外部担い手との協働が地域内で定着しつつある点も印象的でした。南丹市にも小規模・分散した農地を抱える地域があり、今回の研修は今後の取り組みを考えるうえで大いに参考となりました。

(取材 神澤 典子委員)



▲美濃市 美濃和紙の産地。中津川市 栗きんとんが有名。

農業委員会の中には「農政部会」と「広報委員会」があり、農政部会では「地域再生グループ」「鳥獣害対策グループ」「担い手対策グループ」の3グループに分かれて多様な活動をしています。
広報委員会では「農業委員会だより なんたん」を発行し1年間に3回南丹市内全戸に配布しております。

今回は農政部会の「地域再生グループ」の活動の一部を紹介します。昨年5月に開催の田植え体験イベントに続いて10月に稲刈り体験イベントを企画・開催しました。

「水車の稲刈り」開催報告(美山町鶴ヶ岡)



美山町鶴ヶ岡で昨年開催した「水車の田植え」(57号令和7年6月号掲載)に続く「水車の稲刈り」を10月12日(日)に開催しました。今回も多くのご家族にご参加いただきました。秋風に揺れる稲穂の中で、子どもたちも稲刈り鎌を持ち、一株ずつ稲を刈り取っていきました。「腰が痛い」「かゆいわ」といった笑い声に包まれながら、稲刈りを楽しみました。体験後には、焼きたての「鮎の塩焼き」、釜で炊き上げた「松茸ご飯」、そして「釜焼きピザ」を召し上がっていただき、参加された家族と一緒に餅つきをするなど、野外で楽しい時間を過ごしました。今回の農作業体験を通じて、子どもたちから「来年もぜひ参加したい」という声をいただきました。

この体験を通じて、自分が食べているお米がどのように作られているかを知り、楽しむ中で「米作り」への興味や関心が高まり、これからの農業を支える人々が増えることを願っています。地域の高齢化が進む中、若い世代に農業への関心を持ってもらい、一人でも多く農業を応援する人が増えるよう、活動を続けていきます。(文：農政部会 地域再生グループ)

豊かな老後生活のために!!

加入しませんか?

の う ね ん
農業者年金

国民年金に上乗せする公的な年金制度です

1. 農業者なら広く加入できる
2. 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
3. 保険料の国庫補助
4. 保険料は2万円～6万7千円まで千円単位で選択可能
5. 税制面で大きな優遇
6. 80歳までの保証がついた終身年金

詳しくは農業委員会事務局まで (連絡先：0771-68-0067)

**全国農業
新聞**
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

全国農業新聞を購読しませんか。

農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。

農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。

発行日/金曜日発行(月4回) 発行所/全国農業会議所

購読料/月額700円(税込)

購読の申込は農業委員会事務局まで 電話 0771-68-0067

地元で活躍されている方や農業に関する取り組み、
また、日々の生活に密着したまち情報をお伝えします！



はちそば
十割蕎麦・八稜 (園部町産)

蕎麦好きに愛される繁盛店



▲お店のロゴ十割蕎麦・八稜(はちそば)

「十割そば」ののぼりを目印に訪れると、駐車場には他府県ナンバーが多数、開店を待ちわびる人が10人以上並びます。ここは園部町産生にある「十割蕎麦・八稜」オーナーの岸直弥さんが令和5年8月に始められたお店です。順番を待つ女性に話を聞くと「もう3回目です。蕎麦も海老天もおいしいですよ！」とのことでした。

さっそくカウンターに座りメニューに目を通すと、冷たいもの、温かいもの、丼物、一品料理もあります。温かい蕎麦茶をすりながら大ざるを注文すると、キラキラと輝く蕎麦がやって来ました。まずはそのまま、蕎麦の風味と歯ごたえを味わい、次に薬味と

- 営業時間：11:00～15:00
- 定休日：木曜・不定休あり
- 電話番号：0771-85-1001
- ウェブサイト：
<https://hachi-soba.com/>



八稜(はちそば)公式ウェブサイトメニューや地図はこちらへ

本わさびとつゆでおいしくいただきました。最後は蕎麦湯で締めると、心までほぐれるひとときに。蕎麦好きに愛されるお店です。野菜は地元産を中心に、蕎麦粉は北海道・江丹別産を使用しています。(取材：奥村 喜久雄委員)

▼カウンター越しに見る厨房



▲木目の美しい木のカウンター

南丹やぎの青空市 (八木町八木)

長年親しまれる地域の青空市



▲湯気の上がる焼きそばの屋台

毎回10店舗ほどの出店があり、旬の野菜や果物のほか、弁当や出来立ての焼きそば、手作りのケーキ店などが並びます。出店者の中には、八木町内の城山共同作業所やあけ



▲手づくりケーキのお店にて買い物と会話を楽しむ来場者

八木駅からまっすぐ商店街の中を歩いて約2分のところ、街中の駐車場で毎月第4土曜日の午前10時から青空市が開催されます。

- 開催日：毎月第4土曜日
- 開催時間：10:00～14:00



南丹やぎの青空市は今年6月で15周年を迎えます。15周年を迎えるにあたって新たな企画を検討中とのことです。今後が楽しみです。(取材：鶴山 昌仁委員)

ぼの学園の姿も見られます。毎回100人以上の来場者があり、特にお昼は多くの人が訪れます。会場にはテーブルとイスが置かれた交流スペースもあり、買い物途中の休憩や食事ができます。出店者や買い物客同士の交流の場にもなっています。



▲賑わいを見せる青空市



地域農業の発展を目指し、力強く活動する
団体・個人を紹介します。



農園 Yard Reed 芦田 有吾さん (日吉町)

世界一美しい野菜ロマネスコ栽培

「プラスチックごみはなるべく出さ
たくないの、マルチ資材は使わない」
と話す日吉町胡麻で野菜(1・8ha)
と水稲(30a)の栽培をする芦田有吾
さん。3年前に実家に戻り、休耕地を
借り受けて「農園 Yard Reed」を立
ち上げました。

芦田さんによると、農園の「Yard
(ヤード)」は自分の地元を指し、「Reed
(リード)」は草の葦(あし)で、芦田
さんの名前と組み合わせたとのこと。
就農前から何十年も元気をもらって
いるレゲエを流し、「レゲエと自分の歌
声が一番の肥料です」と、有機・減農
薬栽培に取り組んでいます。



▶「農園 Yard Reed(ヤードリード)」
芦田 有吾さん ジャマイカの国旗と共に

あたらしい野菜栽培の挑戦

現在、30aで【世界一美しい野菜】



▲自ら苗づくりも



▲芦田さんが育てたおおきなロマネスコ

と言われるロマネスコという花蕾(か
らい)の作物が栽培されています。ほ
のかに甘い芳香を放ちイタリア料理に
よく使われる野菜で、芦田さんは「作
りにくいが魅力ある作物。誰もやって
いないから試してみたい」と力を込め
て語ります。7月中旬に種をまき、8
月中旬に植え付け、12月にはようやく
元気なつぼみをつけ出荷時期が近づい
てきました。道の駅をはじめ、近隣の
お店に販売予定です。取材時には、芦
田さんに畑を案内してもらい、丹精込
めて育てられたロマネスコやソラマ
メ、ブロッコリー、キャベツなどの旬
の野菜から、栽培の意気込みを感じる
ことができました。

今年シカなどの獣害やブロッコ
リーが黒すす病にかかり、7000株
の収穫が全滅となってしまい肩を落

しましたが、近所の人から励ましの声
をかけられることが多く、「農業は楽
しい。自分なりの計画を立て、販路も
確保して、自由に進めることができる」
と笑顔で話す芦田さんです。

ジャマイカ訪問を夢に

レゲエの発祥の国、ジャマイカは芦
田さんの憧れの地です。「レゲエの反
骨精神に元気をもらい、将来必ずジャ
マイカに行く。その思いが農業の原動
力になっています」と仰っています。
また、農業を始めて栽培方法に戸惑う
こともあり、栽培指針を定めたいが難
しいとも話されていました。

この度の取材を通して、若手就農者
の前向きな姿勢や夢を持って頑張る芦
田さんの姿に感嘆するとともに、今後
の成長に期待したいと思えました。

(取材：久世 善春・田鶴 昌子・
湯浅 照夫委員)



▲ロマネスコを使ったおしゃれな
フラワーアレンジメント

農業委員
農地利用最適化推進委員
を紹介し
ます

農地の売り買い、貸し借りなど、
農地に関する相談はまず担当地区の委員へ



農地利用最適化推進委員

西村 邦夫さん
担当：園部町摩気地区

就任して今年で2年目を迎えました。1年目は何も理解できないうちに過ぎ去っていったように思います。今年からは農地利用最適化推進員として、少しでも地域農業の役に立てる事にながればと思います。活動を続けております。また地域計画や中山間地域等直接支払交付金についても取り組みを進めながら、地域の農地が荒れないよう役立てればと考えています。会社を退職した今年は、区長席が待っていました。今では少し筋肉痛気味になりながらも、季節の野菜を育てるなど、退職前は休日だけだった農作業に、日々励んでいます。

農地利用最適化推進委員

鶴山 昌仁さん
担当：八木町南地区



日々の風景の中で農の営みが地域の生活を支えていること、畑や田んぼ、そこで働く方々を見る度に、農業が地域の文化や暮らしの根っこにあることを感じます。この大切な場所を守る機会をいただけたことは非常にありがたく、委員として、まずは現場の声にしっかりと耳を傾け、課題や思いを丁寧に受け止めていきたいと考えます。気軽に声がけください。皆さまと一緒に南丹市の農業を支えていきたいと思っております。

農地利用最適化推進委員

芦田 竜一さん
担当：日吉町胡麻地区



毎年、気温が上昇していくのが気になっていきます。このままだと、遊休農地が増えます。農地法などについては、まだ分からないことが多いですが、皆さんの足手まといにならないよう頑張ります。少し、林業経営を35年ほど行っています。推進委員を務めさせていただきます。胡麻の芦田と申します。米作りを4反ほどと自給自足の畑を少し、林業経営を35年ほど行っています。



農地利用最適化推進委員

波多野 義幸さん
担当：美山町宮島地区



高等学校卒業以来、兼業農家として48回目の収穫を終えることができました。この間、農業経営において一度も収支が黒字になったことはなかったと思います。田舎で生まれた農家の長男として、跡を継ぐことに何ら疑問を抱くこともなく、現在に至っています。35年来の相棒として支えてくれたトラクターも、今年初頭に経年劣化で再起不能となり、やむを得ず新車を購入しました。自身も経年劣化の影響を受ける年齢に達し、何か後世に残せることはないかという思いがあります。また、農業を筆頭とする一次産業に対する政策も、今のところ先行きが不透明であると感じています。

縁あって委員として推挙いただきました。微力ながら任期を全うしたいと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。

地区別担当委員は農業委員会だより「なんたん」54号に掲載しています。下記QRコードからダウンロードできます！



なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。
南丹市のあちらこちらで、地域ならではの魅力的な取り組みがされています。
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。



高原の山村「神吉」と奉納花火

山道を駆け上がると、標高およそ500メートルの高原盆地が広がり、一面に田んぼが続きます。山腹には、古くからこの神吉の里を見守ってきた日吉神社が鎮座しています。



▲日吉神社前より眼下に広がる農地



▲日吉神社の境内

霧の深いことで知られる旧八木町とは対照的に、神吉は比較的霧の影響が少なく、清らかな水と自然に恵まれた環境にあります。この地の気候を生かし、水稻栽培に加えて、京都の菓子文化を支える和菓子の製造や、京野菜「水菜」を中心としたビニールハウス栽培も行われています。静かで清浄な環境に魅せられた移住者がカフェの開業

など、新たな営みを育んでいます。

毎年10月14日には、旧八木町と縁が深い株式会社社國友銃砲火薬店によって、日吉神社への奉納として花火大会が開催されます。混雑も少なく、伝統を受け継ぐ花火師の確かな技を、落ち着いた雰囲気の中で楽しむことができます。神吉とのつながりの中で続いてきたこの花火大会は、知る人ぞ知る存在として、純粹に花火を鑑賞できる貴重な機会となっています。
(取材：小早川健一委員)



▲涼やかな秋の夜空に映える、色鮮やかな花火

編集後記

今号の表紙写真

美山町檜原の川上神社で五穀豊穰、山仕事での安全を願い奉納される「からす田楽」。600年以上にわたり伝承され府の指定無形民俗文化財となっています。笛、太鼓、びんざさらの奏でる囃子とからす役の舞い。素朴でユニークな農山村の貴重な伝統芸能がこの先も継承されることを願っています。(文：八木 均委員 写真：下野 純一氏 (美山町在住写真家))



▲「からす田楽」お囃子に合わせてからす役の男性が舞う。



地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 野口 | 八木 | 平井 | 神澤 | 田久 | 池上 | 鶴山 | 國府 | 小早 | 川勝 | 奥村 | 西村 | 中井 | 中井 | 平野 | 湯野 | ◆ |
| 則彰 | 典均 | 隆子 | 昌隆 | 善子 | 善春 | 尚隆 | 昌仁 | 博美 | 健一 | 芳明 | 久喜 | 邦夫 | 順剛 | 清市 | 照久 | ▲ |
| 広報委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | |